

中国残留孤児の見た日本

——昭和28年に満州から帰国して——

講師：赤崎 大（わこ盲導犬贈呈プロジェクト事務局長）
10月5日（水）18：30～20：00 受講料1,000円 定員30名

講座の趣旨

私は中国の旧満州で育ちましたが、ソ連の突然の参戦でそこは生き地獄の様相となりました。3人の姉妹が終戦翌年1月に、生き延びた母は帰国する1年半前に亡くなりました。父は、すでにシベリアに拘留される途中で亡くなっていました。

4歳上の兄と私の二人が取り残され、昭和28年に、私13歳、兄17歳の二人の兄弟で、興安丸で舞鶴に帰国しました。落ち着いた先は鹿児島県の加治木の叔父の家でした。私は、中国では満足な教育も受けていませんでしたが、いきなりの小学6年生へ編入させられ、以後、日本社会に適応するために、幾多の障害を乗り越えねばなりません。

今日は、残留孤児が、当時の日本をどのように見、そしてどのように生きて来たか、についてお話をしたいと思います。

講師紹介：赤崎 大（あかさき ひろし）



1940年、中国吉林省生まれ、1953年に帰国。
広島大学教育学部高校教育課程卒業。PL教団の教師（布教師）となり2010年に退職。先妻を60歳で亡くし、65歳で帯子と再婚。倫理法人会や養心の会などの講師として各地で講演を行う。義姉 井上わこの続けてきた盲導犬贈呈の活動を引き継ぐ。著書：『満州に輝く星』『わが満洲』、『哀しみの華 輪島塗』など。

※受講をご希望の方は、①お名前、②連絡先、住所をご記入の上で下記にE-MailもしくはFAXにてお申込みください。

コミュニティ・アカデミー上幟

TEL & FAX : 082-225-8103

E-Mail : c.a.kaminobori@outlook.jp



広島市中区上幟町 10-15-201 畠田ビル 2F コミュニティ・アカデミー上幟
<http://manabi-kaminobori.com/>